

日韓ト対馬調査斜坑オープン式

厳原町阿連のオリグチ崎で

佐賀県唐津市から釜山まで235キロ／青函トンネルの5倍

9月11日午前9時、厳原町阿連のオリグチ崎で、一般財団法人国際ハイウェイ財団が主催した日韓トンネル対馬調査斜坑オープン式が行なわれ、財団関係者及び地元住民、工事関係者他、韓



国からも前国会議員等25人を含む約80人が出席した。式典は日本統一教会の徳野英治会長が聖別式を行い、神永義彦宮司と今中妙信住職が神事(お祓い)を斉行した後、関係者によるテープカットが行なわれた。

掘削。その残土処理のために約60万m³(約20万坪)の土地を必要とする。そのため、工事用道路を含め先祖代々の土地の提供者に感謝の言葉を述べた。

本坑は日本本土九州佐賀県の唐津から、韓国巨済島まで、青函トンネルやユーロトンネルに携わった技術者による技術者委員会を立ち上げている等々と経過報告をした。

また、「来年2015年の日韓国交正常化50周年と、2018年の平壤冬季オリンピック。そして2020年の東京オリンピックの成功を契機に、その後国家プロジェクトとして2020〜30年に完成させる夢を見よう」と話した。

日本本土は1986年に

唐津で施工日韓トンネル対馬調査斜坑阿連坑口のオープン式は、この他、川口勝之日韓トンネル推進長崎県民会議議長、尹晶老韓国JHE会長、金東旭大韓民国前国会議員等による激励の挨拶、金沢義春日韓トンネル推進神奈川県連民会議議長の音頭による万歳三唱等あった。

掘削しており、唐津は1200坪、対馬は1300坪斜坑・掘削する予定。一方の巨済島韓国側は、韓国の法律で民有地であっても調査斜坑等の掘削ができないことから、ボウリング調査(地質調査)にとどまっているという。今後、対馬調査斜坑阿連坑口では、水・電気等の動力源や資機材の確保。

また斜坑のためのトロッコを引っ張るウインチ小屋の建設などから着工していく予定と